WAK WAK

発行
代表理事　岡本 茂
〒569　高槻市富田町2丁目 13-8
-0814　　ハイツ白菊1F
TEL/FAX　072－693－9005
E-mail:jinken@ba.wakwak.com
URL:http://wak2.jimdo.com

大阪北部地震の被災者支援へのご協力に感謝申し上げます

－ 声なき SOS を見捨てない取り組み　－

大阪北部を震源とする震度６弱の地震

大阪府高槻市を震源とする震度６弱の直下型地震が６月１８日に発生。高槻市内ではブロックの下敷きとなった小学校児童含め犠牲者が出たほか、多くの方が避難所生活を強いられました。

最後まで残った富田地区避難所

富田地区では市営富寿栄住宅 12 棟・13 棟が「余震による倒壊の恐れ」として市から避難指示が出され、26 世帯 52 人が全員避難。

結果、富田地区避難者数は市域全体の半数におよび最も遅くまで避難所での生活が続きました(避難所閉鎖は８月３日)。

多くの方からご寄付、支援物資のご提供

タウンスペース WAKWAK としても富田地域の災害支援拠点としての役割を果たすべく地元関係団体と協働して SOS を見捨てない取り組みを展開。地震直後からふーどばんく OSAKA さんをはじめ各地域から食材や飲料水などの提供、ご寄付による支援などを多数いただきました。災害支援寄付については８月末現在 424,481 円をいただきました。改めて、心から感謝申し上げます。

NHK 全国放送「クローズアップ現代+」、毎日・産経各紙でもご紹介いただきました。

「6 月 20 日放送“都市直下地震”露（あら）わになったリスク　～大阪震度６弱で何が～」

震災後２週間をめどとした第一次被災者支援「共助」の力災害時に

要支援被災者へ緊急物資の個配行動

地震の翌日、避難所と合わせて地元の要支援被災者へ手分けして緊急物資を届けました。

緊急物資はふーどばんく OSAKA から届けられた飲料水と豚まん、クッキー。

朝から仕分け作業をして市営住宅入居者を中心に高齢世帯 126 軒へ安否確認しながら支援物資を手渡ししました。

水道水が濁り飲料として使えない状態になっており、近くのスーパーからも飲料水がなくなっていてみなさん大助かりしていました。

避難所生活者への昼食・夕食を無料提供(276 食)

６月 25 日～7 月６日までの月～金、社会福祉法人つながりと協働して富田校区避難所生活者への温かい昼食をサニースポット喫茶クローバーで無料提供。喫茶まで来られない方には弁当にして配達。一日最大 30 食で計 214 食を提供させていただきました。

また、富田支部との協働で６月 28 日、7 月６日の両日、夕食の炊き出し提供も行いました(計 62 食)。

学習支援教室再開と子どもたちへのケア

中学生を対象とした学習支援教室も会場となる富田ふれあい文化センターが震災の影響で使用できなくなりました。

発災翌週の 25 日(月)から社福つながりサニースポットの施設を借りて再開。スタッフを増員し子どもたちの心のケアに努めました。

社福つながりによるアロマ出張サービスも

長期にわたる避難所生活のケアとして社福つながりサニースポット利用者によるアロマ出張サービスも行いました。

避難の長期化に対応した第２次支援

福祉的配慮を必要とする避難者への対応と住まいの確保へ支援

避難所生活が 1 か月を超える中、被災者の住まいの確保と生活再建にむけた相談支援を強化。WAKWAK ホームページ・フェイスブック等による支援カンパ要請を行うとともに、箕面市の北芝暮らしづくりネットワーク「やったるデイ」との協働による被災者の移転支援にも取り組みました。

これらの経験は今後の「地域高齢者支えあい事業」に活かしていけることとなります。

子どもたちにとっての第３の居場所づくり(WAM 助成金)事業

子どもたちの夕刻から始まって夜も支える。学習支援事業、子ども食堂の取り組みの中で見えてきた課題を通して新たな事業を検討しています。この事業は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）助成金事業です。

「西成子どもの里」見学会を実施

大阪北部地震発災の前々日の６月 16 日に「夜の子どもたちの居場所づくりプロジェクト」で大阪市西成区にある「こどもの里」を視察見学しました。参加したメンバーは、プロジェクトに参加する WAKWAK スタッフをはじめとする福祉、学校関係者約 15 名。

「こどもの里」は西成区釜ヶ崎で様々な厳しい環境に置かれた子どもたちへの支援、居場所として 1977 年から活動をしています。

「どんな環境にあってもこどもは生まれながらに生きる力を持っている」「子どもを守る地域。学校、福祉の連携（ソーシャルネットワーク）が何より重要」という館長で NPO 法人子どもの里理事長の荘保共子さんの確固たる信念に改めて感銘を受けました。

「子どもの貧困を学ぶ学習会」を開催します

WAKWAK では「地域・家庭・学校・行政・大学・企業が連携して”ただいま～“と言える子どもたちの居場所づくり」をめざし、それぞれのスペシャリストを招いての連続学習会を開催します。

詳細は同封案内チラシをご参照ください。

熊西地域振興財団、コミュニティ財団 阪急阪神未来のゆめまち基金等でも活動報告

子どもの居場所づくり事業については、公益財団法人大阪コミュニティ財団様の助成団体報告会、公益財団法人熊西地域振興財団様の「地域 NPO と魅力ある地域を創りたい人たちの交流フォーラム」、阪急阪神未来のゆめまち基金様の「助成団体報告会」、等でも事業報告の機会をいただきました。

イベント・事業報告

さにすぽ夏祭りに出店（七月二十一日）

社会福祉法人つながり・サニースポットの夏祭りに今年も出店。ボーダレスアート教室ポストカード、手作りのはにたん缶バッジ、小物等を販売させて頂きました。

学習支援教室中三生の合宿を行いました（八月二十五～二十六日）

高槻市北部樫田の民家をお借りし、学習支援教室わんぴーすに参加している中学三年生８名の強化合宿を行いました。台風の影響で２泊３日予定が１泊２日と変更になりましたが、参加した全員が勉強に集中しました。

富田富寿栄盆踊り大会(九月二日)

富田に古くから伝わる江州音頭を永く伝えていこうと復活した盆踊り大会も今年で９回目。地元自治会や老人会のみなさんのご協力で今年も９００人を超える参加者でにぎわいました。

サウスダコタスタディツアー（七月二十一日～八月九日）

アメリカ先住民であるラコタ族居住区を訪れ、彼らの自然観や考え方。そしてマイノリティとしてたくましく生きる人たちとの出会いを学ぶスタディツアーが今[illegible]

社会的養護で暮らす子どもたちのエンパワメント事業　募集開始

- 児童養護施設の子どもたちを対象にした自然体験活動・ボランティアスタッフ研修 -

子どもたちの自然体験+ボランティア育成

９年目となるこの事業は、①子どもたちへの自然体験活動と②ボランティアスタッフ研修の２つの柱で行っています。

自然体験活動では、虐待やひとり親、障がい等の社会的、経済的事由により児童養護施設で暮らす子ども達を対象にして、自己肯定感を育むことを目的にしています。

ボランティアスタッフ研修では将来、教育現場や福祉関係などの対人援助職を目指す学生を対象に、研修や実践を通して子どもたちのエンパワメントを支援する実践力を育むことを目的としています。ぜひ、おこし下さい。

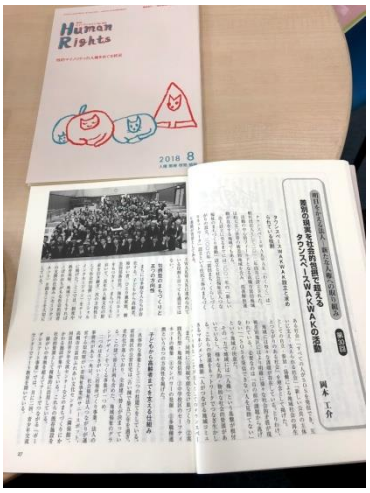
講師派遣/富田地区フィールドワーク受け入れ/原稿執筆

収益を社会貢献事業に循環

WAKWAK では、全国各地の NPO・小・中・高等学校・大学などの教育機関、公共施設や自治体といった行政機関、企業など、さまざまな場にお招きいただき、講演講師をさせて頂いています。

また、富田地区における包摂型のまちづくりや子どもの居場所づくりの実践を踏まえた現地研修の受け入れも行っております。

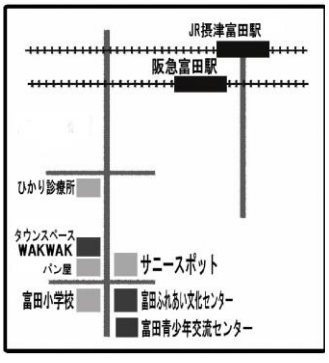
加えてこの間、月刊『ヒューマンライツ』や第一法規株式会社『地域包括支援・相談事例集』などにも実践を寄稿しています。



この取り組みを富田地区のみに還元するのではなく様々な地域の活性化に微力ながら貢献できればと願っております。

また、ここで頂く報償費は、子どもの居場所づくり事業をはじめ社会貢献事業に大切に使わせていただいています。

詳しくはホームページをご覧ください。



編集後記

今号は大阪北部地震に対する災害支援の取り組みの報告を中心に振り返りました。ご支援頂いたみなさまへ改めて御礼を申し上げるとともに今後も引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。